

第2回
西脇市立学校学習環境規模
適正化検討会議

会議録

令和2年8月28日

西 脇 市

第2回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録

1 開催日時

令和2年8月28日（金） 午後7時～午後9時

2 開催場所

播磨内陸生活文化総合センター「ドウジアム」

3 出席委員

- (1) 當山 清実 委員
- (2) 齋藤 周藏 委員
- (3) 高瀬 克義 委員
- (4) 藤原 悟 委員
- (5) 稲垣 光繁 委員
- (6) 藤原 慎也 委員
- (7) 大隅 麻子 委員
- (8) 松田 一郎 委員
- (9) 竹内 誠 委員
- (10) 山本 義尚 委員
- (11) 白川 智喜 委員
- (12) 石田 君枝 委員
- (13) 佐伯 千裕 委員
- (14) 横山 賀大 委員
- (15) 内橋 孝太 委員
- (16) 遠藤 憂子 委員

4 欠席委員

- (1) 川上 泰彦 委員
- (2) 藤原 敏伸 委員
- (3) 内橋 智史 委員
- (4) 前田 里美 委員

5 会議録署名委員

- (1) 高瀬 克義 委員
- (2) 藤原 慎也 委員

6 傍聴者

7人

7 説明のため出席した者の職氏名

- | | |
|--|-------|
| (1) 西脇市教育長 | 笹倉 邦好 |
| (2) 教育部長 | 森脇 達也 |
| (3) 教育委員会参事 | 遠藤 一博 |
| (4) 学習環境規模適正化推進担当次長兼教育総務課長兼学習環境規模
適正化推進室長 | 高橋 芳文 |
| (5) 学校教育課長兼学習環境規模適正化推進室主幹 | 永井 寿幸 |
| (6) 学校教育課学校教育担当主幹兼教育研究室長 | 衣川 正昭 |
| (7) 教育総務課学習環境規模適正化推進室主査 | 中根 伸也 |
| (8) 教育総務課学習環境規模適正化推進室職員 | 山口 大輔 |

8 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 事務局説明・審議
 - ア 第1回学校学習環境適正化検討会議 会議録の承認・公開及び前回
会議の意見整理について
 - イ 研修「社会の変化に対応する学校教育の方向性について」
 - ウ 新たな時代に適応していくために必要な、資質・能力や教育のしく
みについて（意見交換）
- (5) 第2回検討会議の整理
- (6) その他
- (7) 事務連絡
- (8) 閉会

○ 事務局
開会

○ 事務局
開会に際し、教育長があいさつを申し上げます。

○ 教育長

第2回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議にご出席いただきありがとうございます。

先ほど、安倍晋三内閣総理大臣が辞意を表明されたという報道がありました。安倍首相は、教育再生会議をはじめ我が国の教育についても関心が高く、教育改革の旗振り役でもあったと思います。またここで時代が動くのではないかと考えております。

私は、長年中学校に勤務し、3年間という生徒にとっては短期間ではありますが、生徒を預かり教育を行っていました。また、若い頃からどのような学級をつくるかといった「学級づくり」に情熱を注いで取り組んできました。どのような生徒を育むかという点では、活発で、利発で、多様性のある生徒像を目標にしていました。

昭和50、60年代の西脇市は、非常に活気のあるまちでした。市町合併前の旧西脇市には、子どもたちも約5,000人近くおりました。西脇小学校は、全校児童数が1,500人近くおりましたし、私が勤務していた西脇中学校は、全校で約1,100人の生徒がいました。黒田庄中学校も、私が勤務していた頃は300人ほどの生徒がおりました。市町合併から15年が経過し、子どもたちの数が随分と少なくなりました。人口動態が変わり、市の雰囲気も変化してきていると実感しております。西脇中学校では当時の3分の1、黒田庄中学校でも当時の半分とどんどん児童生徒数が減少しています。そのような変化の中で、どのような教育を推進すべきか思い悩みます。

一方、この間に、学ぶ量や内容が格段に増えております。児童生徒の保護者も委員として多数出席いただいておりますが、ご自身の在学時と現在の教科書を比較しても、大きさや重さ、厚さ、内容のどれをとっても全く違うことを感じていただけたと思います。そのような新しい時代の中でどんな学びをするかというのは、私たちの大きな課題となりますが、やはりコミュニケーションをしっかりと取り、多くの友達と切磋琢磨し、個々の能力を結集して課題解決に取り組んでいく、そのような力をつけるべき時代が到来したというように思います。

正解がひとつでない中において、自身で課題解決の方策を探ることがで

きるような、生きる力を持った子どもたちを育てていくことの重要性、そのためには、やはり、教育の質や量、学ぶ者と教える者を支える環境が課題であると考えています。

本日は、会長から「社会の変化に対応する学校教育の方向性について」と題してご講義いただきます。検討会議で審議を進める視点等を学んでいただき、本市の子どもたちの目線に立って、先を見通した活発な議論をお願いしたいと思います。

検討会議には様々な立場の方が出席いただいていますので、何でも聞ける、何でも話題に出せる、ざっくばらんに話が進んでいく会議になることを望んでいます。各委員のお考えのこと、質問したいことはどんどん出していただき、活発な議論になることを期待しています。

○ 会長

————— [会長あいさつ…記述省略] —————

○ 事務局

本日の会議の成立について報告します。委員20人のうち、本日の出席委員は16人となっており、出席委員が委員の過半数ですので、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議条例第7条第2項の規定により、会議が成立していますことを報告します。

○ 事務局

次第4の議事は、会長に進行していただきます。

○ 会長

協議事項に先立ち、本会議は、第1回会議で承認したとおり公開とします。

○ 会長

本日の傍聴希望者数を事務局から報告願います。

○ 事務局

本日の傍聴希望者は、7人です。

○ 会長

事務局から、本日の傍聴希望者は7人との報告がありました。傍聴要綱で定める定員以下のため、7人全員に傍聴を許可します。

○ 会長

次第4—(1)「第1回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議会議録の承認、公開及び前回会議の意見整理について」、事務局から説明願います。

————— [事務局説明…記述省略] —————

○ 会長

会議録の修正、承認について、委員の意見等はありませんので、第1回検討会議の会議録は承認いただいたものとし、事務局において公開に向けた準備を進めることとします。公開する会議録は、発言について委員を特定しないものであり、委員の署名をもって、確定したものとさせていただきます。

○ 事務局

会議録は、市のホームページ等で公開する予定です。会議録ダイジェスト版は、市のホームページで公開するほか、地域等における回覧資料とすることで検討しています。

○ 事務局

第1回検討会議において、「学校学習環境規模適正化の捉え方」について5つの論点案を提案しましたところ、委員から新たな視点、加えたい視点について意見をいただきました。

地域との関わり、社会とのつながりの重要性、家庭・地域というテーマについて意見をいただきました。この意見を踏まえ、論点の1つでありました「適切な学校支援環境」を、「適切な家庭・地域との連携・協働」に改め、地域との関わり、社会とのつながりを踏まえた、次世代育成環境について検討いただきたいと思います。

次に、「適切な教育システム」として、学年の区切りも含めたダイナミックな学校運営を可能にする教育システムの検討の必要性について、意見をいただきました。この意見は、本日の協議テーマでもあり、研修や協議の中で検討いただければと考えます。

また、学校と防災等の地域活動との関連性についての視点についても意

見をいただきました。この点について、5つ目の論点「適正な学校配置」の中で、将来のまちづくりや、地域づくりとの関連を踏まえた議論の中で審議いただければと考えます。

地域と子どもとの結びつき、地域から捉えた学校像・子ども像という視点も重視すべきだという意見もいただきました。各回検討会議において、意見交換がされる中で、地域の捉え方・地域の実態・地域のニーズという視点を含めていただければと考えます。

教員の負担増、勤務時間超過の実態、保護者との関係性等についても意見をいただきました。次代の学校環境を議論する中で、変わりつつある学校、教育活動に関わる学校現場の環境も重要な視点であると意見共有させていただきました。この点について、論点3の「適切な家庭・地域との連携・協働」の柱として検討いただければと考えます。

以上、各意見を踏まえ、本会議における捉え方への位置づけとして、提案させていただきます。

○ 会長

事務局において第1回会議の意見が整理されました。おおむね反映されていると思います。委員からの意見もないようですので、「西脇市立学校学習規模適正化の捉え方・修正案」について、異議なしと判断します。

○ 委員

検討会議の考え方や在り方について確認します。条例では、検討会議は市長の附属機関として設置されているものの、実際は教育委員会が事務局を担い運営されています。附属機関は執行機関に設置できますので、教育委員会に設置することも可能だったと思います。しかし、西脇市は、市長の附属機関として検討会議を設置しています。その経緯を教えてください。

また、市長の附属機関として検討会議が存続するのであれば、例えば、本日の議論内容である教育システムや、教育の内容について、果たしてこの会議で議論するのが正しいのか疑問に思います。つまり、教育委員会制度を考えたときに、「政治的中立性」から本来は教育委員会の下にこの会議を設置し、教育委員会の諮問に基づいて議論すべきだったのではないかと考えます。そのあたりの考え方をお聞かせください。

○ 事務局

西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議条例において、第2条に規定する所掌事務の中で、小中学校の学校規模の適正化に関すること、小中学

校の適正配置に関することとあります。法令上、学校等施設の管理運営については教育委員会が行うということになっており、設置については地方公共団体、つまり市長の権限に属することになっています。

そのような背景から教育委員会ではなく、市長の諮問としています。教育システムなど教育に係る課題を検討いただく内容が多いため、教育委員会が事務局を持っていますが、議題により市長部局の職員が出席することがあります。西脇市の体制として、教育委員会を中心に、市内のまちづくりに関係する課や次世代創生課、財政課、総務課等様々な部課と連携して推進しています。

○ 委員

財政面については市長部局の話になると思います。そうなると、その部分のみの議論で良いのではないかと思います、いかがですか。

○ 事務局

ご指摘のように、財政面については教育委員会に権限がありません。しかしながら、学習環境規模を全体的に考える中で、教育の部分を中心に、財政面やまちづくりの部分など多方面の課題をこの会議で審議をしていただきたく、中心的な課題が教育にあることから、教育委員会が事務局を持っているということをご理解いただきたいと思います。

○ 会長

次第4—(2)、研修「社会の変化に対応する学校教育の方向性について」、事務局から説明願います。

○ 事務局

学識経験者として検討会議に出席いただいています、兵庫教育大学教授から、「社会の変化に対応する学校教育の方向性について」と題して講義いただきます。検討会議における審議を深めていただく上での重要事項であり、共通理解を図る必要がある内容について教授いただきます。また、国において新たに制度化された教育システムや、拡充が図られる教育システム等についても触れていただきます。

————— [講義…記述省略] —————

————— [質問・意見なし] —————

○ 会長

次第4-(3)「新たな時代に適応していくために必要な資質・能力や教育のしくみについて」に移ります。

講義の中で触れましたが、「Society5.0」と言われる未来社会の到来、教育を取り巻く情勢の変化、人口減少など、不透明で予測不能な社会を生きることになるのが現代の子どもたちですが、委員各位の家庭における子ども、そして地域における子どもを想定していただき、委員各位が考える「新しい時代に適応していくために必要な資質・能力や学校教育のしくみ」について、意見交換したいと思います。

○ 委員

会長の講義を聞き、かなり大変だと思いました。そして、だんだん憂鬱になってきました。しかし、学校というところは本来楽しいところであるはずですし、今後もそうあってほしいと思います。そのように考えますと、学校生活において部活動もできないような状況では、子どもたちものびのびとやっていけないのではないかと感じます。質的確保も大切ですが、ある程度の量的確保も必要ではないかと思っていますので、そのような観点から、子どもたちの視点に立った話し合いをしていきたいと思っています。

第1回会議の意見にあった、防災拠点等の問題も非常に大事ですが、地域社会の中の学校として、地域の皆さんが、防災拠点等を抜きにしても、親しみの持てる学校でありたいと考えます。そういった学校づくりが西脇市でできれば、非常に嬉しく思います。

○ 委員

前回提示のありました着眼点について、自分なりに勉強したつもりですが、やはり範囲の広さに愕然としています。「Society5.0」に対する目標や、OECD（経済協力開発機構）の「Education2030」について少し読んでみました。アクティブラーニングを効果的に行うには、基礎的な読解力、数学的な処理能力というのは、どうしても避けて通れないところだと思っています。その基礎力を西脇市の義務教育課程でどれだけ確実に身に付けることができるのか。ある程度年齢が進んだ段階で建設的な対話や意見交換ができるような能力を育む教育システムを構築することができるのか。西脇市も基礎的読解力の強化に注目していますが、さらなる教育システムが必要だと思っています。

もう1点、私自身子どもがいる保護者の立場として発言するのは、自身の首を絞めるようでとてもつらいですが、家庭における教育力の低下とい

う問題に今後どのように対応していくか、これは避けて通れない大きな課題だと思っています。ふわっとしたしつけや、家庭学習での教育力だけではなく、今回の「GIGAスクール構想」にもあるように、家庭での大容量高速インターネットの配備に、各家庭が対応して、そこに投資ができるような意識を持っていくかということも、大きな課題になっていると思います。それができないと、義務教育でインターネットを使った双方向の教育を行おうとしても、格差が生まれると思います。今回の新型コロナウイルス感染症が流行している状況下で、インターネット設備が整っていて導入することができた私立学校と、設備が整っていない公立の学校を比較すると、教育格差ができてしまったように思いますし、実際に、公立学校のうちの5%しか、双方向のインターネット授業ができなかったという結果も報道されています。それをどこまで導入できるか、家庭の意識を変えていくかということころは大きいと思います。

○ 委員

私にも3歳と1歳の子どもがいます。子どもたちにどのようなしつけをするのか、将来どのように育ててもらいたいかなどを考えることが多々ありますが、正直なところ予測が付きません。今後20年後、子どもたちが成人したときに、果たしてどのような能力が役立つかということすら分かりません。

教授の講義にもありましたように、学校では様々な新プログラムが導入されており、プログラミング教育等の新教育システムも増えてきていると思います。しかし、それで子どもが将来幸せになれるのかということ、その保証はないと思います。私が学生の頃は、受験を頑張れば大学に入学でき、大学を卒業すれば、それなりの就職先に就ける時代でした。しかし、大学全入時代に突入しています。講義の中で大学進学目的だけの学校ではないとの話もありましたが、今後20年後には、大学に進学することに意味があるのかといった疑問が生じる可能性もあるのではないかと思います。

また、子どもたちが将来競争する相手は、恐らく日本人に限らないように思います。来日する外国人が増加し、優秀な方が多く入国すると思います。20年後には、子どもたちはそのような人と競争しないといけない、競争だけではなく、彼らの文化にも触れ、コミュニケーションを図ることとなり、すごく難しい時代が到来するように思います。それらを逆算して考えたときに、子どもたちに何を教えてあげるのかというのは、親としても本当に予測が付きません。

そのような中、今自分が最も大切に思うことは、子どもたちに変化に対

応する力を付けさせることです。社会が変化し、その変化を自分で受け入れる能力や相手の話を理解する能力、自分の意見を相手に伝える能力等、多様性を認めながら人々との関係の中で自己を発揮する、共に生きていく能力が求められると思います。非常にレベルの高い人物像ですが、子どもにそのような資質を身に付けさせないといけないように感じております。その手法となると想像が付きませんが、今後考えていく必要があると思います。

○ 委員

私は里親をしており、里子5人と実子2人、妻、祖父母と生活しています。第1回会議を終え帰宅したときに、「事件だ。」と言うんです。私が不在の間に何が起きたのか心配になり話を聞くと、カブトムシが死んでしまったということでした。その話を聞いて、自然が子どもたちの教育に不可欠であることを感じました。生物を大切にすることは、自己を大切にし相手も大切にすることを養う、大切な教育だと思います。

講義にあったSociety5.0やGDP等の内容を聞くと、子供たちにどのような教育をすればよいのかと頭が痛くなってしまいます。

私は、東京の児童養護施設での勤務経験があり、大規模な中学校や高校等で居場所のない子どもたちをたくさん見てきました。高校生になる里子の1人は、大都市の1学年に5学級あるような大規模校からこちらに来まして、それまでは不登校でした。その学校では教室に在席することが第一義であり、里子にとっては登校しても学ぶことができない環境になっていたように思います。しかし、西脇市内の中学校に通うようになり、学級担任をはじめ多くの先生がその子の居場所をつくることに尽力いただき、無事卒業することができました。高校でも居場所を与えていただいているような状況です。児童生徒のそれぞれの能力に応じた居場所のある学校であってほしいと思いますし、教員の尽力だけではなく、保護者としてもできる限り共に推進したい気持ちがあります。

山、川、田畑等の自然が豊富である利点、地方の都市である西脇市の良さを生かした学校づくりができれば良いと思います。また、そのことにより子どもたち自身の居場所ができるのではないかと考えています。

○ 委員

講義を聞いて、教育環境はとても難しいということを改めて感じています。私には中学生から0歳児まで5人の子どもがいますが、やはり学校では勉強が第一、英語教育やプログラミング教育が大切と、学力の詰込みを

されているという印象があります。私の子どもの頃と比べればかわいそうな気もしますが、そのような状況に耐えられる、対応できるためには、主体的に判断できる能力や、コミュニケーション能力を高めることが大切だということを感じています。

ニュース等でよく聞く「非認知能力」を高めることや、就学する前の段階で、根っこの部分の教育を固めておくことが大事だと思います。根っこの部分がしっかりしていれば、小中学校において少し心が折れそうなときでも、耐えられることも多いのではないかと、そのために就学前の段階で大人が子どもたちに与えることの影響は大きいのではないかと思います。家庭での対応や地域との関わりがとても大切だと思っていて、我が家は子供が5人いながらも核家族で、周りの方々に助けをいただきながら生活している部分も多いです。

私は県外から嫁いできましたが、西脇市は親切な人が多く、良い地域性だと思います。今後、学校の統廃合等に議論が及んだ際、地域の関わりを大切にし、学校と地域が連携できる対応を整えたいと思います。

○ 委員

私には3歳の子どもがおり未就学ですので、小学校や中学校のこと、ましてや小中一貫校のことは、他人事のように思っていた節がありました。しかし、第1回会議の資料で、現在の0才児が小学校に入学するとき、ほとんどの小学校で1学級も編制できない状況を知り、とても驚き、周りの方々に話をした次第です。私は、西脇生まれ、西脇育ちで、教育長のあいさつであった年代（昭和50、60年代）に小中学校に在籍した世代です。小学校では4クラス、中学校では7クラスありました。その時代と比べ、現在は1クラス20人の小学校があること、仮に小中一貫校になったとしても、9年間30人程度の同じメンバーで固定されたまま進級してしまうことが、少し怖いように感じました。部活動に関しても、野球のチームが編成できないので、他校との合同チームになるような話を聞き、財政面も含めて課題は山積していると思いますが、何とかしなければならぬというのを実感しているところです。

○ 委員

学習環境規模の議論は全国各地で行われていると思いますが、やはり西脇市ならではの学校の在り方を考えていきたいと強く思っています。

私は多可町で生まれ、高校から今まで西脇市周辺に関わりを持ってきました。西脇市は様々な人材が輩出されたまちだと思います。ノーベル賞候

補者や世界的な美術家、作家、スポーツ選手、ミュージシャン等、人口規模が小さいにも関わらず、これだけ多様な人材を輩出するまちは全国的にも類を見ないように思います。自分なりにその理由を考えてみますと、西脇市の多様性が、これだけの人材を輩出した背景になっていると思っています。西脇市は全ての地区において合併を繰り返し形成されたまちです。様々な地域の人が集まって1つのまちになっていますし、また、播州織全盛期には労働者として日本各地から来西されました。そういった要素がミックスされて、今の西脇市がありますので、やはり、この多様性をこれからも大切にしていける学校にしていかなければならないと思いますし、そのような学校の在り方を考えていきたいと思っています。

講義にもあったように、世界中で多様性の在り方が大切にされています。様々な考え方の子どもがおり、国籍や多様な性、障がいの有無等全てが個性として尊重される状況でなければ、これからの学校は成立しないと思います。「キー・コンピテンシー」においても、社会的に多様な個性と交わる力、協働する力ということが重要視されています。多様性を持つ子どもたちが、自分らしさを発揮できて、自分の居場所がある学校を目指していきたいと思っています。そして、ふるさと西脇が大好きで、地元を誇れるような子どもたちを育てる学校にしたいと思っています。

○ 委員

私は、自分が教師という立場になったことで、いろいろな想いがあります。委員から、学校は地域コミュニティの場であるという話がありましたが、小学校の運動会は、幼児から高齢者まで世代を問わず大勢の人が集まって、学校によっては消防団まで参加するような、地域挙げての一大イベントです。今でこそ、公民館や地域の施設があって、そこに人が集いますが、過去においては、神社や寺院での寄合いが、時を経て学校が公民館的な役割を果たすようになり、現在に至っているように思います。

私は、多可町加美区にある小学校で教員生活をスタートしました。当時の教育長の指示の下、町民体育祭等の行事にも従事し、キャンプの指導員としても派遣されました。「なぜ我々が従事しないといけないのか」と文句を言いながら行っていました。しかし、そのおかげで（旧）加美町の方々との繋がりを持つことができたように思います。いまだに我々は先生と呼んでいただき、地域住民と同じ扱いをいただいています。地域に目を向け地域の中で学ぶ大切さを、当時の教育長に教わったのだと今になってようやく感じるようになりました。このような経験から、やはり子どもたちには、自分のまちに誇りを持ってほしいですし、学校で学んだことが

思い出として残ってほしいと思っています。

また、リモートワークが可能な時代になってきました。西脇市にいながら様々な発信ができる働き方が可能となり、実際に活動を始めた方も市内にいらっしやいます。そのような姿をもっと子どもたちに見せてやりたいと思います。子どもたちは、学校の中だけで学ぶのではなく、もっと地域を知り、地域の力を借りながら、地域でも学んでいければと思います。

教員の多忙化についての話がありますが、学校の中にしか目が向いていないような思いがあります。我々教員は、地域のことを知る必要があると思いますし、勤務校が第二の住所であって、我々はその住民にならないといけないと思います。先日市長は、「西脇市民とは、住んでいる者だけではなく、西脇市で勤務する者も含めて市民である。」という話をされました。とても嬉しく思いました。そのような意識を持ち地域と繋がっていかねばいけない。そのような繋がる力をつける、社会をつくる力をつけるのが学校の役割だと思います。

これまで、互いに顔を突き合わせて、相手の表情や呼吸を感じることを大切にしてきました。組織の高齢化や崩壊が止まらず、コミュニティもだんだんと崩壊しているような時代になってきています。繋がる力を強化し、学校がコミュニティの中心として続いていくという理想を持っています。

○ 委員

研修の中で、産業界から期待される人材の育成という話がありました。税収増加のため、コスト削減のため、刑務所に入る人数を減らすために教育をしているわけではないと私は思います。また、学校小規模化による影響について、現在、全校生徒 100人弱の中学校を受け持っていますが、小規模化全てがデメリットだとは考えていません。しかし、校区の人口が11年後には半減することが予想されており、その場合には、子どもたちへのデメリットが大きくなるように感じています。

今後、子どもたちには様々な経験をさせなければなりません。とにかく、思いやりがあり、人と話し合いができ、討論の中で自分の意見を主張しながらも、妥協点や着地点を見出せるような子どもを育てることが大切だと思っています。

○ 会長

研修の補足をします。教育の社会的効果について、文部科学省から財務省への予算要求資料において、教育社会学や教育経済学の視点が盛り込まれたことを紹介しました。教育が社会経済的効果の追求だけを目的にして

いるということではなく、そのような視点で考えている関係者もいるということなのです。

○ 委員

我々は、教育長や教育委員会参事が校長であった下で教員を務め、教育委員会学校教育課長や教育研究室長と共に学級担任をしてきました。諸先輩方からは、学校は人間力を育てる場であり、教養と人間的魅力を育む場であると指導いただきました。

しかし、時代の流れで、先ほどの研修でも産業競争力の強化という話がありましたが、大学卒業後に即戦力となる有能なグローバル人材を育てなければいけないということです。もちろん必要なことで、西脇市も英語、IT技術、プレゼンテーション能力等を磨いていかなければならないと思います。しかし、大きい視点で見ると、小手先の技術を強化しているようにも感じます。

私が思うことは、グローバリズムが必ずしも人間を幸福にするとは限らないとか、経済よりも大切なものがあるということが分かる教養や情緒を持つ人間を育てたいということです。長い歴史からもやはりそういったものが生き残っているのではないかと思います。西脇市の持つ伝統を継承しつつ、さらに発展させて、子どもたちを育てていきたいと考えています。では、どうすればよいかということになりますが、私は4中学校のうち3校の勤務を経験しましたが、それぞれに地域性がある、例えば、比延地区には比延地区の良さがあり、その他の各地区にも見事な個性があります。我々が取り組んでいるのは、それぞれの学校を元気にすることであり、元気にするために、今考えなければならないこと、すべきこと、できること、総合的に最善の策を講じたいと考えています。

○ 委員

私には小学校6年生と3年生の子どもがいます。6年生の子どもは5年生の時にずいぶん変わりました。4年生までの学級担任と違う教員が学級担任となったことがその理由です。そのことから、学級担任の大切さと言いますか、教員の人間力、指導力がとても大切であると思いました。

また、学校教育はもちろん家庭教育においても、教員や親が子どもの人間的、能力的資質の向上を図らなければならないと強く思います。

オンライン授業について、教員の多忙緩和の観点からも、外部で活躍されている方の授業をオンラインで取り入れるということも必要だと思います。このことで、教員の負担軽減を図ると同時に、子どもたちの小さな世

界ではなく、世の中の一流の方々と出会える場、子どもたちが刺激を受けて頑張ろうと思えるような機会となり、成長に繋がればと思います。

○ 委員

私は、やはりコミュニケーション教育に注力してはどうかと思います。私の子どもが通う小学校では、人前に立ってどんどん発言する場をつくり、自分の意見を自分の言葉で発言できるような訓練を実践しています。言葉の力の育成はどんな時代でも必要だと思うので、この教育は外せないと思います。

○ 委員

私も子どもが3人いますが、自分の子どもにどうなってほしいのかということ深く考えることがありませんでした。来年度には中学生になりますが、少し危機感を感じています。

委員の意見を聞き、コミュニケーション能力等は必要となり、大切なことだと思います。しかし、人とコミュニケーションをとらずとも生きていける時代になりつつあり、例えば何か問題が起こったときに、コミュニケーションを図らないからだめだとなってしまうのも良くないと思っていますが、よく分からなくなっているのが現状です。

グローバル化ということをつまると、委員の意見にもありましたが、外国人の流入等により、例えば同じ業務を400万円で行う人がいる一方、200万円で行う人も現れるのではないかと思います。そうなれば、人としての付加価値をどのように付けるのが大切になると思います。

○ 委員

教育課程上の教育と、心の教育をそれぞれどのように行っていくかということを考えていきたいと思っています。

○ 委員

質問です。諸外国における学校の役割の比較の中で、日本の教員は大変だということですが、アメリカ合衆国は州によって違うのかもしれませんが、諸外国の1クラス当たりの人数を、教えていただきたいと思っています。

また、1クラスあたりの適正児童生徒数についての研究があればお知らせいただきたいと思っています。

私は、地元に残り自治会発展に尽力する人材を求めます。西脇市で様々な職業を選択できるようなシステムを構築していただき、できる限り地元

に残って、家庭教育、地域教育、学校教育の下に育ってほしいです。

○ 会長

1クラス当たりの児童生徒数についての各国の研究データはありますので、次回にでも提示したいと思います。日本でも、新型コロナウイルス感染症に係る「3密」を避けるという観点から、当然減らす方向で検討が進められていくかと思われます。

○ 委員

私は、自治会活動や学校教育に関わっています。学級編制に係る定員について、人数が少ない場合には1学級になりますが、編制基準を1人でも上回れば1学級から2学級になるという法律上の問題があります。しかしながら、地方自治体において柔軟に対応している状況であり、教育としてはありがたいと思います。また、私は日野地区に居住しており、日野地区の中に田舎型と都会型の混在を感じています。田舎型に分類される地域からは30分ほど歩いて学校に行きます。「見守り隊」という制度があり、児童と一緒に学校まで歩いていく際にいろいろ見学しますが、例えば、高齢者が学校まで歩き児童たちと一緒に体操をして帰ってくる、校長と話をし帰ってくる、また、児童に読み聞かせをするなど、そういう高齢者が増えれば、学校再編の問題においてもデメリットがメリットとなり、様々な取組ができるようになると思います。

しかし、地域が崩壊しつつあります。婦人会が消滅していますし、消防団も昔は多くの加入がありました。現在は加入を拒む傾向にあります。老人会も人数こそたくさんいますが、活動できる人が非常に少ない。我々自治会役員は、地域の役割として頑張っているものの、そのような部分をいかに活性化するかが困難な現状です。

講義の中で、学校再編の独立変数として教育効果、施設マネジメント、地域活性化が示されましたが、非常に難しいものばかりです。これらをどのようにすべきかを考えながら検討していきたいと思います。

○ 会長

次第5「第2回検討会議の整理」に移ります。委員の意見を整理し、事務局から報告願います。

○ 事務局

本日の協議・審議の概要・結果等を整理させていただきます。

第1回会議録については、委員の署名をもって確定し、発言委員を特定しない形で会議録を公開することを決定しました。また、本会議の会議録をダイジェスト版として作成し、配布及びホームページで公開することを決定しました。

第1回検討会議において、委員からいただいた意見を、学校学習環境の捉え方の5つの論点に加えることを決定しました。

会長の研修において、「Society5.0」や「社会に開かれた教育課程」等について、検討会議で情報共有しました。

委員の意見交換において、一人一人の子どもの居場所についての意見、就学前教育、西脇市の多様性、家庭の教育力、「GIGAスクール構想」に関連した家庭の意識力、地域の活性化、地域に長く住み続けてほしいという地域の願い、それぞれの地域に見事な個性があり学校の元気につなげていきたいということ、人としての付加価値がこれから大切になるのではないか、等の意見が出されたことを確認しました。

以上を、本日の協議・審議の概要・結果として報告します。

○ 会長

第3回検討会議において、第2回検討会議の会議録に加え、委員の意見を集約し、事務局から書面で報告願います。

○ 会長

次第6「その他」に移ります。委員の意見等を求めます。

○ 委員

検討会議では、各中学校区から代表が選出され出席していますが、西脇市全体も広く、各小学校区や中学校区の環境が異なりますので、中学校区を単位として、別途会議を設けてはどうかと思います。

○ 委員

私もその意見に賛成します。第1回会議でも、地域の中にある学校ということで議論を深めていくべきではないかという意見がありました。検討会議の下に、もう少し地域性を持たせた会議をしていくほうが、広く地域住民の意見を聴取できるのではないかと思います。

○ 会長

各中学校区に意見聴取を行うための会を設置したいという提案です。検

討会議の総意を確認しますが、異議はありませんか。頷いている委員が多く賛成多数の雰囲気です。提案を承諾されたものとします。

事務局は、検討会議委員と調整の上、会の設置に向け準備願います。

○ 事務局

地域の会議を提案いただきましたので、準備を進めます。

中学校区を単位とした地域会議のメンバー構成について、検討会議に出席の委員を中心に、区長等の地域を代表する方、小学校児童及び中学校生徒の保護者を代表する方・就学前の子どもの保護者を代表する方、小中学校長を基本として構成することを想定しています。

地域会議の代表者には、検討会議の地域を代表する委員に就いていただき、各代表名で会議を招集し、代表者に会議を進行していただきたいと考えていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

また、地域会議に係る事務については、事務局としてサポートさせていただきます。

○ 委員

地域会議は、どのような位置付けになりますか。検討会議とは別に、中学校区毎に検討会議に類似した会議を行うのでしょうか。何を話し合うのでしょうか。

○ 事務局

検討会議の委員は、各地区、各種団体、小学校区のバランス等を鑑み選出しています。西脇東中学校区を例に説明しますと、比延小学校と双葉小学校があり、小学校PTA代表は双葉小学校区から、未就学の子どもの保護者代表は比延小学校区から出席いただいています。しかし、小学校では比延小学校児童保護者の意見もあり、双葉小学校児童保護者の意見もあると思います。また、各中学校区の状況も市内とはいえ違いがあります。そのため、まず各地域の意見を広く聞いていただき、それ等の意見を検討会議で発表し、各委員で共有いただき、市全体の方向性や今後の在り方について協議していただきたいと思います。

○ 委員

検討会議において、どのあたりを基準としてイメージしながら、議論すればよいのでしょうか。30年後を見据えるのか、もっと先の50、60年先を見据えることとなるのでしょうか。

○ 会長

あまり短いスパンですと、10年後に再度検討を要する等の可能性がありますので、どのようなスパンで検討していくのか、また意見聴取していくのか、事務局で案を持ち、各地区での説明資料として提供願います。

○ 事務局

第3回の検討会議は、11月20日（金）午後7時から、西脇市民会館中ホールにおいて開催させていただきます。

○ 事務局

閉会に際し、西脇市教育部長があいさつを申し上げます。

○ 教育部長

会長には、「社会の変化に対応する学校教育の方向性について」と題して、教育を取り巻く諸情勢の変化、学校や教員の役割の変化、今後の社会において求められる能力、学校の小規模化による影響等について分かりやすく講義をいただきました。ありがとうございます。

また、意見交換において委員各位から貴重な意見をいただき、ありがとうございます。今後の審議の参考として集約させていただきます。

さらに、委員から、各地域で意見聴取を行うための会を設置してはどうかという提案がありました。事務局としても、委員各位と調整の上準備を進めたいと思います。

今後とも、それぞれの地域団体で、未来の西脇市を支える子どもたちの学習環境を最優先に、慎重な審議をお願い申し上げます。

○ 事務局

閉会